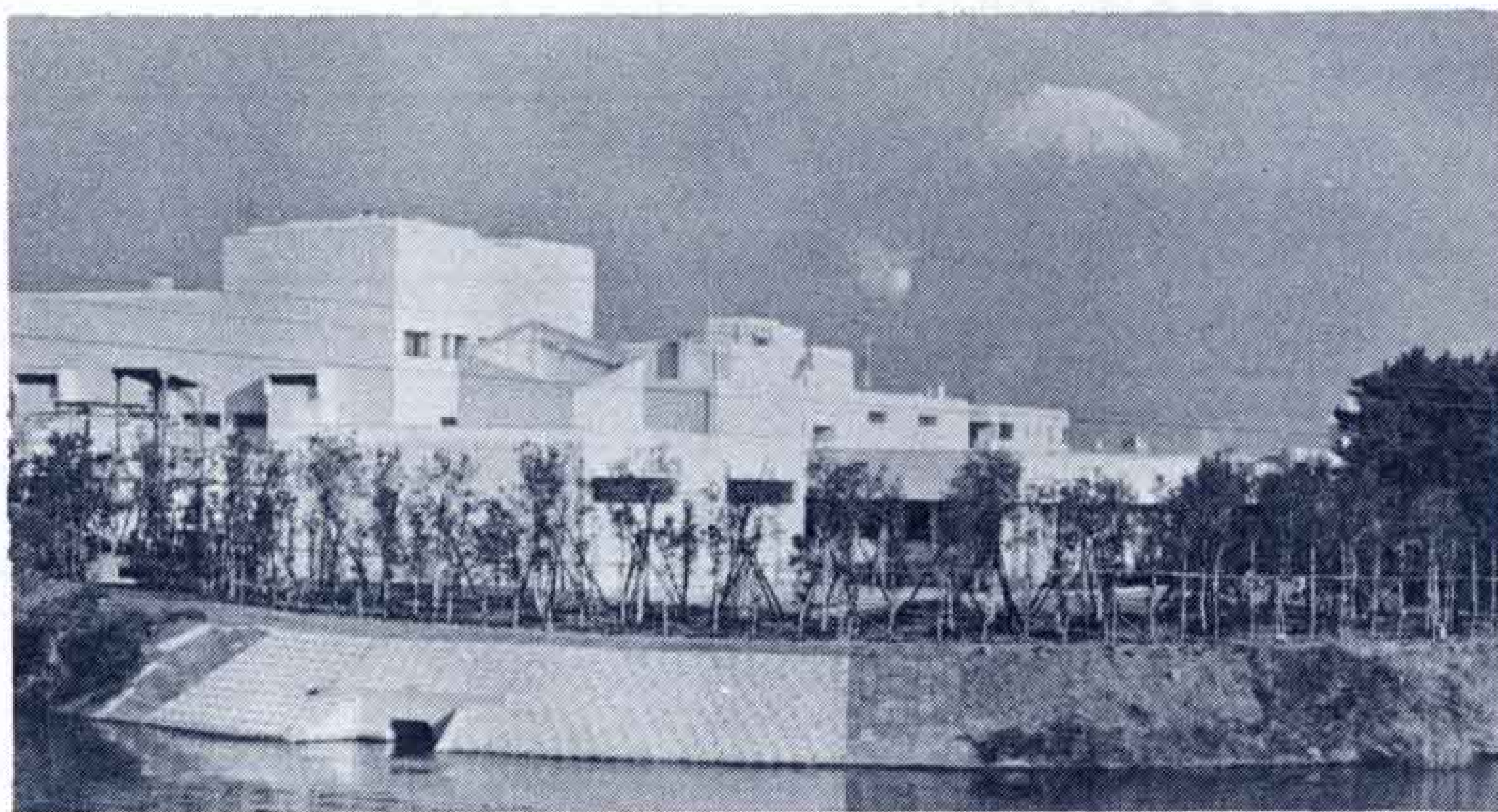




公共下水道処理場

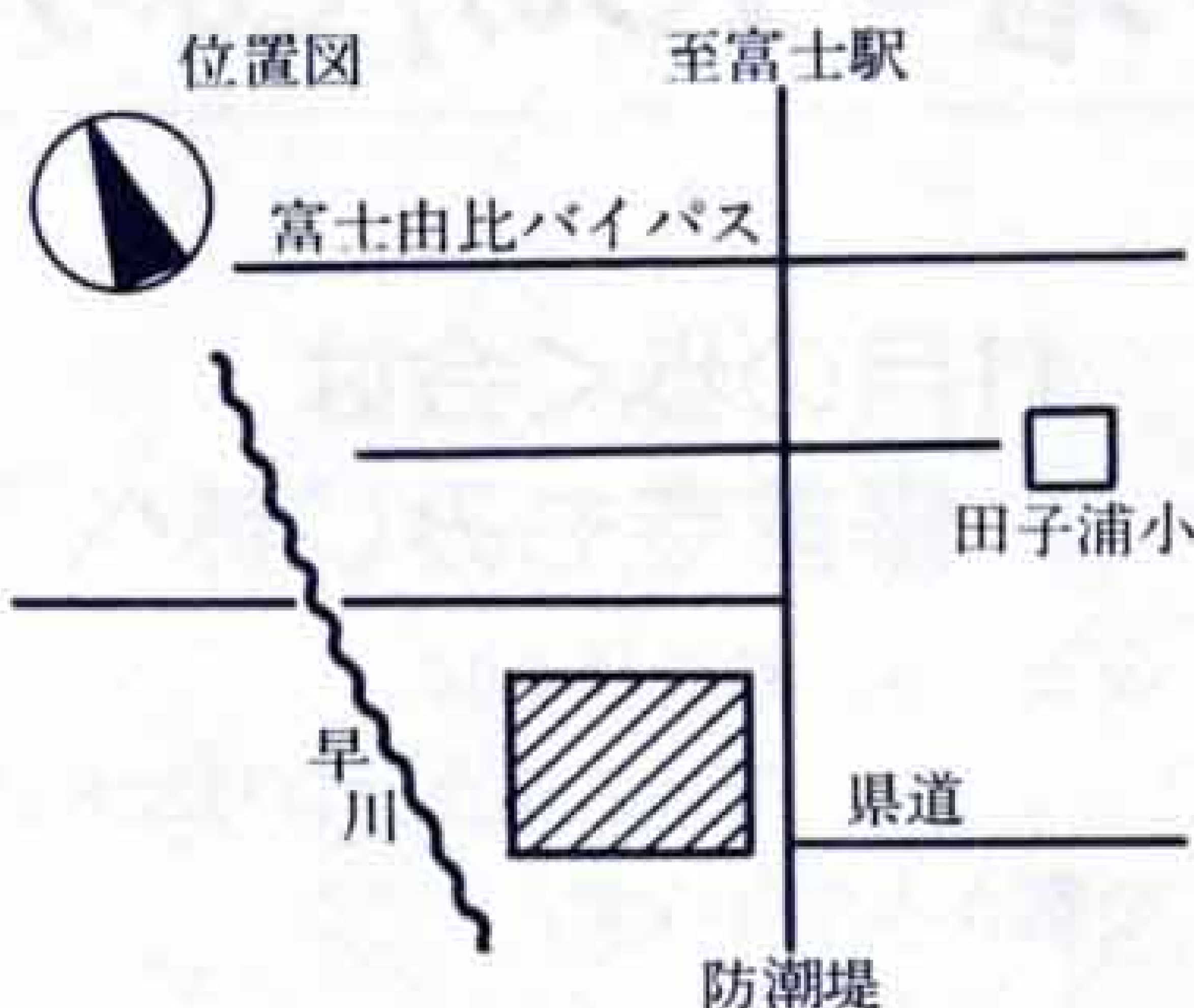
# 西部浄化センター



各家庭の台所や風呂の水、し尿を地下のパイプを使って集め、きれいな水にして川や海に流す役目をしているのが、ここ西部浄化センターです。

この処理場は、昭和54年4月から運転を開始し、1日4万9,500人分の処理ができます。

特徴は、隣接する住居地域や、都



市公園などとの関連から臭いを出さないことに細心の注意を払っています。

また将来的には水処理施設の屋上にバレーボール・テニスコートなどをつくり、市民のみなさんが気軽に利用できる憩いの場となるよう計画しています。

## 表紙のことば



厚原北区 主婦  
佐野久子さん (38歳)

ごみの分別収集がスタートしました。  
ごみの分別収集は、今まで不燃物として埋立っていたごみを「びん類」「かん・金属類」「埋立物」に分けて回収し、資源として再利用しようというものです。  
「びん類」の回収日に指導員として、集積場所に立った佐野さんは、「初めての回収でしたが、みなさんスムーズに出してくれました。ただし、中にはびんのフタがついているものもありましたが、これはとってほしいですね…」と話していました。

## ぼくの夢 わたしの夢

お医者さんになりたい



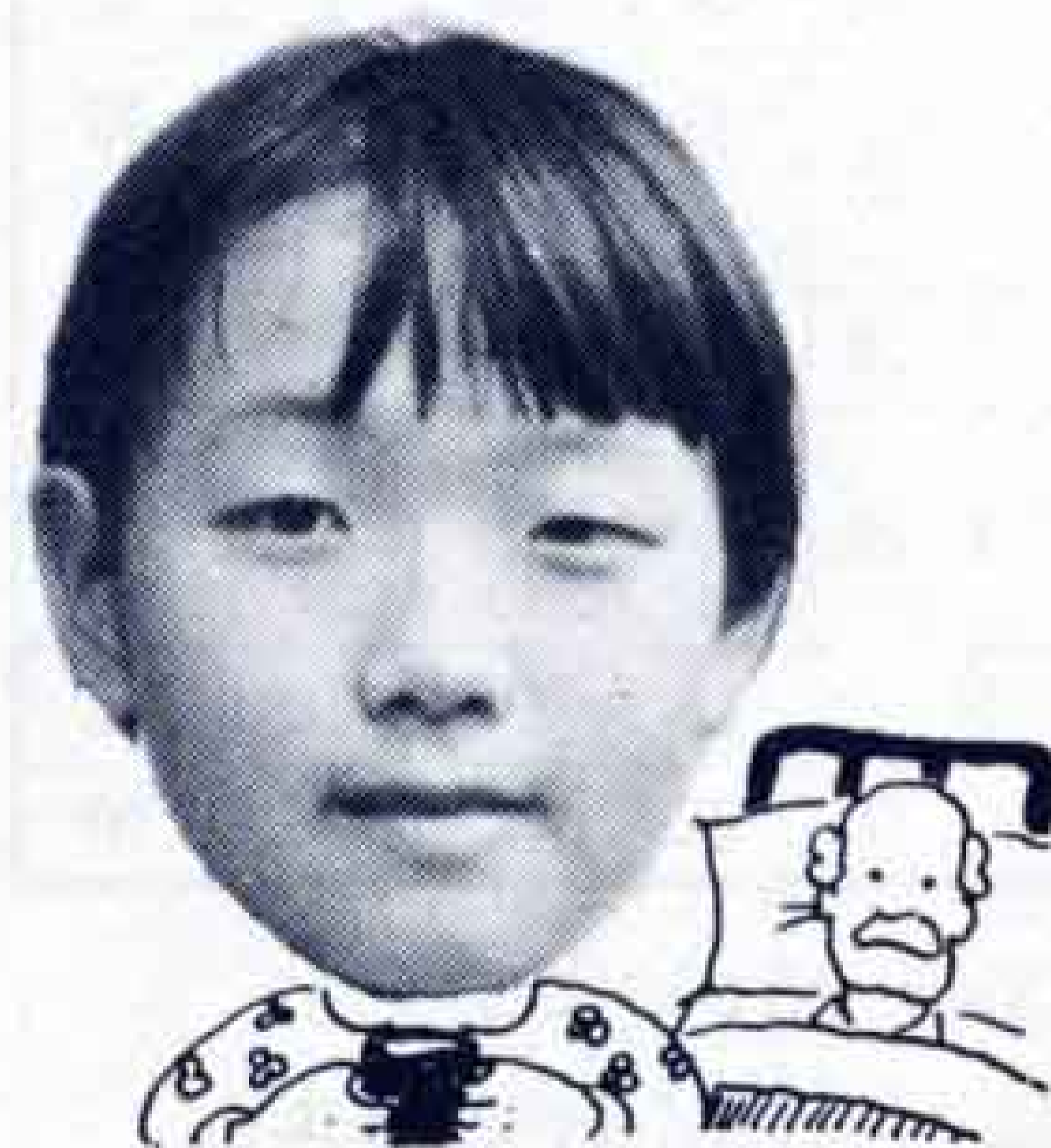
原田小 五年  
小野江延啓君

ぼくは、将来お医者さんになりたいと思っています。ぜんそくの発作がおきると、息がつまるほどせきこんで、夜ねむれなくなります。早くじょうぶな身体になりたいです。

夜おそくてもみしてくれる、親切なお医者さんがいたらいいと思います。

ぜんそくがなおったら、お医者さんになって、夜中でも病気で苦しんでいる人を見てあげたいです。

## みんな幸福になって



原田小 五年  
田中比呂美さん

私は、高校生になったら、ボランティア活動に入り、ねたきり老人や障害の人達、病気でみんなといっしょに運動も出来ない子どもの世話をしてあげたいと思います。

手話を覚えたり、点字の読み方を覚えて、耳の聞こえない人や目の見えない人達の役に立ちたいです。

みんなで協力して一人でも多くの人を幸福にしてあげたいと思います。